



いけざわこどもクリニック通信

VOL.274

7月号

例年よりかなり早い梅雨明けに驚いています。熊本の暑い夏がやってきました！夏を楽しみましょう！しかし外出時はこまめに水分をとって、くれぐれも熱中症には気を付けて下さいね。虫による皮膚トラブルが発生しやすい時期です。是非ご相談ください。

院長 池澤 滋

感染症情報 5/19~6/22	前回	今回
アデノウィルス	3	4
溶連菌感染症	16	15
感染性胃腸炎	60	57
水痘（水ぼうそう）	2	1
手足口病	0	5
りんご病	0	3
突発性発疹	8	12
おたふく風邪	4	4
ヘルパンギーナ	0	13
ヒトメタニューモ	0	0
新型コロナ	2	2
インフルエンザA	0	0
インフルエンザB	1	0



★クリニック予約
★クリニックホームページ
★いけざわ beauty (インスタ)
★クリニック Instagram
こちらから→ → →



「こどもって大変じゃない？そつ言われることもありますが、だから面白い！」を伝えたい。これからも楽しんでいただけるどうれしいです。

「小児科にエンタメを♪」

4コマまんが
作・絵
ちえこ&きみこ



サクタロウが教えてくれたこと

先月のこと。「何歳ですか～？」二人の男の子がクリニックの庭にいるサクタロウを見にやってきた。

「10歳だよ。だから人間なら60歳くらいかな」触ってもいいよとサクを近づけると、ちょっと怖がる。慣れない様子で、「飼いたいって言ってるんだけど」とお兄ちゃんと弟。そこに小さい子を抱いたお母さんがやってきて、「この子が生まれたから今はちょっと」と、上の子に気をつかいながら話していた。

私たちが犬を飼い始めたのは、今から10年前。三番目の子どもが高校生になってから。もっと早く、子どもたちが小さい頃から飼っていればよかったなあと思う。それは人生の後悔のひとつになるかもしれない。

以前は動物のことを「重荷」だと思っていた。

「飼いたいっ」って子どもに言われても、「大変だよ、どこにも行けないよ。旅行だって行けないし」そんなふうにいろんな言い訳をして、子どもたちの飼いたい気持ちを封じ込めた。その言い訳のすべてが、今思えば“苦労したくない”って気持ちから生まれた物語だったなあとと思う。だってサクタロウがうちに来てからの10年、私たちは海外にも行ったり、サクのために何かを我慢したかと振り返っても、苦労と呼べるほどのことはなかった。

ペットホテルもあるし、知り合いにお願いすれば預かってくれ、留守の時は朝晩の散歩も助けてくれた。なのに飼う前は、大変なことばかりを想像して、子どもの希望を叶えなかつた。十分に叶えられたはずだったなあと、今さらながら後悔する。こう考えると、子どもを持つことも同じかもしれない。

結婚し、一人目が生まれ、二人目が生まれ…。その頃の私はもう三人目は無理だと思っていた。3歳の長男、1歳の長女を前にして、食事だけじゃなく、身の回りの世話、お稽古事や塾も始まるだろう。そんな当てのない不安を先取りして、「大変大変」とよく口にしていた気がする。でも、振り返ってみるとこの人生で子育てほど充実し、楽しかったことはない。お化粧もせず、子どもと一緒に寝落ちしたあの日々。もっと素直に、幸せだけを見つめられていたら子育ても、たとえば動物を飼うこと、もっと違ったかたちで我が家にあったのかもしれないなあと、ふと思う。もちろん、気軽な気持ちで飼うのはよくないし、最後まで責任を持つ覚悟が要る。でも、動物がいることで起こる小さな問題を、家族でどうしようかと頭を寄せ合って考えたり、一緒に乗り越えたり、喜んだり。散歩だって、大変と捉える人と、楽しいって思う人がいるように、物事をポジティブに捉えられたらどんなに幸せだろう。今、自然の中で生きている実感を持てるのも、サクタロウのおかげ。夜更かししてもサクのために起きること、散歩すること。白い息を吐きながら初日の出と一緒に見て、夏には一緒にハーハー言い、台風をやり過ごす。サクタロウを通して、私たち家族は成長したんだと思う。

今、サクタロウは10歳。

いつか必ず、お別れの時はやってくる。その時の悲しみも、きっと私たちを育ててくれる気がしている。



文責 池澤千恵子